

— 卷頭言 —

**新教育課程の先行実施に向けて**

数学部会長 吉田 圭介

次年度から、新学習指導要領に基づく新しい教育課程が数学・理科において実施されることになりました。これまでの準備期間の中で、より良い数学教育のあり方について、各学校の現状を踏まえ、十分に議論を尽くし、計画を進めてこられたことと思います。

今回の改訂においては、「教育内容の主な改善事項」の一つである「理数教育の充実」のため、共通必修科目として数学Ⅰが指定され、統計に関する内容（データの分析）が必修化されたことをはじめ、「教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ」より一層の「『生きる力』の育成」を目指し、「数学的活動」への取組を促すための「課題学習」の導入等、様々な新しい取組が求められています。

高等学校数学科の目標「数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。」を実現するため、新しい教育課程の中で、是非、積極的な生徒の意欲関心を高める授業を実践して頂きたいと思っています。

授業の中で、どのように数学的活動を取り入れ、また課題学習の実践を通じて、思考力、判断力、表現力等の育成をどのように行えば良いかなど、来年度からの授業の取組においては課題も多いことと思いますが、各学校の生徒の実情に即した、先生方の創意工夫を期待しています。

いまさら言うまでもないことですが、生徒にとって、受動的な授業だけでは大きな学習効果は期待できません。生徒が興味・関心を持ち、自ら主体的に学びたいと言う意欲が高まった状態で授業に参加する時、一番大きな学習効果が期待できます。

昨今の社会情勢の影響が大きいと思いますが、ある調査によると、夢を持ち難い現在の状況から、将来のために今、多少苦しくても頑張るより、今現在が楽しければ良いと考える生徒の割合が極めて高くなっているそうです。この現状は決して好ましい事とはいえませんが、厳然たる事実として認識する必要はあると思います。

課題学習を初めとする数学的活動については、やらなくてはならないからやるという受身の姿勢ではなく、是非、生徒のモチベーションを高め、生徒の学習意欲を引き出すための一つの手段として考えて頂ければと思っています。

多様な意識の生徒に対しては、多くの様々な課題があることは事実ですが、どの生徒も「わかる喜び」を体感したいと思っています。興味・関心を持ったことについては、知りたいという意欲・探究心を満たすために、受身の講義のときとは違った生徒の主体的な取組が期待できると思います。

来年度からの新学習指導要領に基づく、これからの授業をより良いものとするために、是非、この部会誌『 $\alpha - \omega$ 』を活用し、各学校での授業改善に役立てて頂ければ幸いです。